

サトリの  
ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、  
仏教に興味を持つ人が増えています。  
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

第39回

日蓮宗勝嚴寺  
大野真如さん

私は中学生のときに空手を始めました。高校卒業後は看護師を目指し、いったんは競技を離れましたが、看護師として働きながら再び空手道場に通うように。でも看護師という仕事柄、手にケガをしてはいけないので、存分に空手に打ち込むことはできませんでした。「もっと空手をがんばりたい」「空手で全国大会を目指したい」……そんな思いから看護師を辞め、空手に専念することになりました。もちろん周囲は大反対。希望の仕事に就き、お給料もいいのに「バカじゃないの？」って。でも私の決意は

変わりませんでした。

新たに道場に通うようになり、そこで出会ったのが主人です。彼は空手の先生をしており、教え方がとてもうまく、尊敬もしていました。そして2008年に結婚。結婚後も空手を続け、出場した大会で優勝するまでに実績を伸ばすことができました。

お寺のお嫁さんではなく  
自分自身がお坊さんに！

さて、私が嫁いだ先はお寺でした。義父が住職、夫は副住職。そんな環境もあり、私は仏教にも興味を持ちました。はじめのうちは「お経って何を言ってるの？」「何がありがたいの？」と疑問ばかり。でも自分でお経を唱えてみるとハッと気づかされるのがたくさんありました。また、夫は私をあちこちのお寺に連れて行ってくれました。いろいろな住職のお話をうかがう機会を与えてくれたのです。そんな中で私は、自分もつと真剣に信仰するべきだと感じました。そのために得度したい、と。それは私の新しい挑戦でした。

実は私は結婚するまで、宗教アレルギーでした。「目に見えないものを信じるなんて、理解できない」と。でも、お寺に嫁ぎ、さまざまな仏教観に触れることで、仏教の世界を目指したいと思うようになりました。楽しいことも苦しいことも、すべての経験は常に共にある……生き



2011年の白蓮会館全日本空手道選手権で準優勝。現在は白蓮会館九州本部指導員を務める。右は空手の師でもある夫・英章氏。

今を生きている人々のために  
仏教を伝えていきたい

私は結婚前と結婚後でまったく変わりました。結婚前（笑）は「前世」と呼んでいるくらい。以前は仕事や人間関係のグチを言うことが一種のストレス解消でした。でもお寺に嫁いで、人の悪口を言うことが、すべての悩み・怒りの根底にあるのだということを知りました。そして、意地悪をされても悪口は言わず、相手の幸せを願うようになりました。これは仏教の教え。仏教は今生きている人たちが、より良く生きるためのものなのです。私はなる必要もないのにお坊さんになりました。そんな魅力が仏教にはあるのです。これからは仏教をみんなが生きている中で使えるように、伝えていきたい。それが私が仏教から与えられた役割なのだと感じています。

楽しいことも苦しいことも  
どちらも共にあるのが人生

おおの・しんによ 1981年生まれ、熊本県出身。福岡大学医学部付属看護専門学校卒業。2008年に勝嚴寺副住職・大野英章氏と結婚、翌2009年に得度。2011年に信行道場を修了し、日蓮宗の正式な僧侶となる。実戦空手道場「白蓮会館」の有段者で、2012年に大阪で開催されたWKO空手ワールドカップでは女子日本代表に。勝嚴寺http://www.shougonji.org